広島大学 大学院人間社会科学研究科 教職開発専攻（教職大学院）
▶学校マネジメントコース
▶教育実践開発コース

記念すべき第1号
ぜひご覧ください！

ニューズレター News Letter

No. 01
創刊号
2021年12月発刊
WEBサイトは こちら▶

第1号編集
佐々木 啓人
Sasaki Hiroto
教育実践開発コース2年

お問い合わせ
広島大学大学院 人間社会科学研究科 教職開発専攻（教職大学院）　広報担当：山崎茜
東広島市鏡山1-1-1　TEL：082-424-4261　e-mail：akaney@hiroshima-u.ac.jp
https://kyoshoku.hiroshima-u.ac.jp/

特集
アクションリサーチⅠ・Ⅲ発表会

教育実践開発コース生が日頃の研究成果を発表

1年生は口頭発表。
10分発表・質疑5分で
頑張りました！

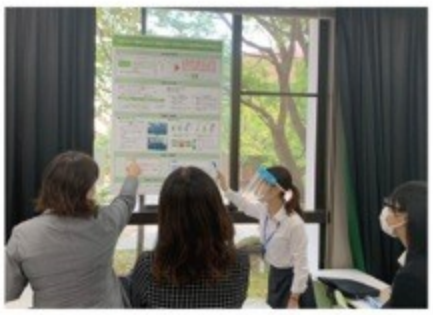
9月17日、26日に本学教育学部棟において、教育実践開発コースのアクションリサーチ（AR）発表会が行われました。

1年は口頭発表形式、2年はポスター形式で各院生の研究テーマに関する実践の中間報告を行いました。

この研究発表会は、AR担当の院生が中心となり、進行や運営を行いました。コロナ禍の中、発表で使用する機材は毎回消毒するなど十分な感染症対策を講じ、対面方式で行うことができました。

発表会には、教職大学院生及び主指導・副指導の教員が参加し、発表内容に対する質疑応答や意見交流が活発に行われました。また、教職大学院では様々な校種、教科の院生が在籍（幼1名、小29名、中11名、高校12名）しているため、様々な視点から意見交流をすることができました。

発表会での意見をもとに自分の考えを整理することができました。発表会を踏まえ、学会で発表したり、次の実地研究に向けて個人の課題解決や実践の準備をしたりします。



2年生はポスター発表。活発な議論が繰り広げられました。

～AR担当とは～

学校現場における校務分掌のように教職大学院内で役割分担をしています。その中の1つである「AR担当」は、AR発表会の事前連絡、資料作成などを行います。

その他に教員と院生を繋ぎ、院生全体を統括する「学年代表」、卒業生との交流会であるつばさの会を運営する「つばさの会担当」、院生間での勉強会の企画や附属学校の先生との勉強会を運営する「勉強会担当」など、院生が主体となって院生生活を運営しています。

発表題目例

- 保育の質を高める幼児理解と環境構成に関する実践的研究
- 多角的な価値判断力の育成を目指す初等社会科の開発
  ―文化財と財政の価値に着目して―
- 社会情動的スキルを高める学級づくり
  ―子どもたちのやる気に火をつけ、可能性を伸ばす学級・教師―
- 中学校理科におけるAR教材を用いた授業開発に関する研究
  ―電池のしくみに関する科学的概念の理解に向けて―
- 高等学校数学科における自己調整スキルの育成に関する研究
  ―自己調整学習サイクルに基づいた授業実践を通して―
- 教師の思春期における児童・生徒理解と情緒的消耗感の関係についての研究
  ―アセスメントをもとにした的確な理解と実践を通して―

取材・執筆しました

岡野 天斗
Okano Takato

教育実践開発コース1年。広島県出身。好きな食べ物は寿司とラーメン（特に三原市にある塩そばまえだ）とエイヒレと魚肉ソーセージとチョコレート。

授業紹介

アクションリサーチ・セミナー
アクションリサーチ実地研究

ゼミでは現職の先生と共に学んでいます！

木村 海登
Kimura Kaito

教育実践開発コース1年。鳥取県出身。教科は保健体育。学部時代は4年間沖縄に在住。趣味はスポーツ観戦。夢はNBAを現地で観戦すること。

教育実習以来の
久しぶりの授業でした！

教職大学院のカリキュラムは理論と実践の往還という特徴を持っており、大学院での学びを実地研究で生かしています。

アクションリサーチ・セミナーでは、自分自身の研究について指導教員や他のゼミ生と相談し、実地研究校での調査法や授業内容の検討を行なっています。

アクションリサーチ実地研究では、附属中学校に訪問し、前期10日間、後期15日間の実習で授業観察やアンケートでの実態把握、授業実践を行いました。アンケート作成や授業内容の検討を行う上で、メンター教諭の存在は非常に大きかったです。指導案作成や生徒への発問の仕方のアドバイスなど、学部卒院生として現場経験がなかった私にとって、現職教員の視点からより良い授業を作っていくためのご指導をしていただきました。

私は中学校2年生の保健の授業を2クラス計4時間行い、その中で自らの授業実践の課題や生徒の反応から柔軟に対応することの重要性を学びました。

実地研究終了後は、来年度の実地研究に向けて授業成果のまとめを行います。このように、教職大学院では現場での実践に対して、理論をもとにして考察・検討をすることができるという魅力があります。

教員インタビュー Teacher Interview

1 教育実践開発コース

山崎 敬人 先生

やまさき　たかひと

大学院人間社会科学研究科 教授
理科教育、学習指導論、教師教育
趣味は、動植物の写真を撮ったり、動物園に行ったりすること。その他にも、光る泥だんご作りや畑仕事・野菜づくりをしたり、知らない場所で地図を見ながら探検したりしている。

ピカピカの泥だんご製作中。探究は続く…

大学の教員になった理由を教えてください。

私は生物学に興味があり、理学部で学んだのち、教育学研究科の博士課程に進みました。その後、学校の理科の教員として12年間勤めたのち、大学で理科教育を担当する教員になりました。理科を教えたり、大学で研究をしたりすることに対する興味は学生の頃からあったのですが、こうして教職大学院で教員養成に携わることになるとは、想像もしていませんでした。今振り返ってみると、"巡り合わせ"の部分が大きかったように思います。

ご自身の研究について教えてください。

教員がどのように力量を形成し、向上させていくかということについて研究しています。具体的には、授業観察やその後のインタビューをもとに授業観の変容を経年的に捉えたり、授業中の省察（Reflection in Action）について、授業者の思い通りにいかなかった場面に焦点を当てて分析したりする、というようなことをしています。教員生活も残り少なくなってきましたが、今は個への対応力がどのように身につくかということに関心を持っていて、それについて深めていきたいと考えています。

学生に向けてメッセージをお願いします。

授業づくりもそうですが、教師というのは、分からない問いがいっぱいあって、それに取り組んでいく仕事だと思います。そういった意味では、教師は実践的な研究者だと言えるのではないでしょうか。そして、そういった問いに向かっていく能力や魅力（やりがい）を持っておくことは、これから教職大学院に入ってくる人や、今教職大学院で学んでいる人にとっても、とても大事なことだと思います。教職大学院はそういったベースを培う機会に恵まれているのではないかと思います。

■インタビュアー:則定伸哉（教育実践開発コース2年・幼児教育を専攻）

2 教育実践開発コース

木佐木 太郎 先生

きさき　たろう

大学院人間社会科学研究科 准教授（実務家教員）
教育実践学、生徒指導方法論
体を動かすことが好きなので、数年前まではスノーボード、サーフィン、野球などのスポーツ全般を積極的に行っていましたが、歳には勝てず、最近ではもっぱらスポーツ観戦が趣味になりました。

豊富な現場経験をもとに温かくも鋭い指摘!

教職大学院の良さはなんですか?

学校現場では様々なことがあり、教員は、常にその場の対応が求められます。教員の皆さんは、その時の状況に応じて"束の間の理論"を即興的に構築していくプロフェッショナルな存在です。しかし、その"束の間の理論"を構築するためには、その前提となるアカデミックな理論を理解していることが大切になります。教職大学院では、教育に関わる様々な理論をしっかりと学ぶことができます。また、現職教員の院生もいるので、それらの理論を学校現場で生かすための方法等についても色々と話し合いながら学ぶことができます。教職大学院には"理論と実践の往還"について身をもって学ぶことができる良さがあります。

木佐木先生ご自身の授業（講義）について教えてください。

院生の皆さんに対しては、公立学校で生徒指導を中心に担ってきた経験を基に、それらの経験を理論と融合させた形で授業を行いたいと考えています。学生の皆さんには、教育実習に関わる授業を中心に、学校教育の基本的な内容について教える授業をいくつか担当させていただいています。少しでも分かりやすく、楽しく、ためになる授業をしたいと考えていますが、なかなかうまくいかず、日々反省をする毎日です。

学生に向けてメッセージをお願いします。

現在、生産年齢人口の減少や、グローバル化の進展、絶え間ない技術革新等により、予測が困難な時代を迎えており、一人一人の教員に求められる資質能力も少しずつ変化してきています。教職大学院は、このような社会の中で、生涯にわたって学び続けることができる教員になるための土台を培うところだと思います。学校現場に出る前に、より多くの理論を学びたいと考えている人、少しでも多くの実践をしたいと考えている人などは、ぜひ、教職大学院でそれらの学びを深めてもらいたいと思います。

■インタビュアー:鉦谷朱理（教育実践開発コース2年・来年度より中学校社会科教諭）

3 学校マネジメントコース

宮里 智恵 先生

みやさと　ともえ

大学院人間社会科学研究科 教授（実務家教員）
初等教育、中等教育、道徳教育、教育課程論
趣味は、庭の花を育てることですね。最近はシュウメイギクが咲いています。かわいらしくて綺麗ですよ!

いつも親身なご指導。みんな笑顔に癒されます。

大学の教員になった理由を教えてください。

教員養成の仕事がしたいというのが一番大きいです。元々小学校教師で、管理職を経験した際、若い先生方から授業や指導案の相談を受けるようになりました。その中で、学校は教師が宝なのだと実感しました。子どもたちが宝なのは勿論なのですが、子どもたちが輝くことを先頭に立って実現するのは教師で、学校では教師が輝く必要があると気付きました。そこから博士号をとり、教員養成の仕事を目指しました。

教職大学院生の良いところはどこですか?

前向きに学びを重ねている姿ですね。どんな社会でも、AIが進行しようとも、最後は人間力が要であると思います。院生生活は大変忙しいと思いますが、皆さんは前向きで、率先して動ける人間力をもっていらっしゃいます。授業をしていても前向きな皆さんとお話しすると気持ちが良いです。きっと皆さんは、眼差し・笑顔・うなずきなどの非言語的コミュニケーションを大切にし、信頼関係を築いていく先生になっていくんだろうなと思います。

学生に向けてメッセージをお願いします。

新しい出会いをとても楽しみにしています。ストレート生も現職生も、志をもって入学されるでしょうから、私たちもその志を支えたいし、よりよく成長して修了していただければと思っています。研究について不安な中で入学される方もいらっしゃるかと思いますが、きっと笑顔が溢れる院生生活が待っています。私たち教員もみなさんを応援しようと思っておりますので、ぜひ教職大学院にいらしてください。

■インタビュアー:井上和紀(教育実践開発コース1年・道徳とソーシャルスキルについて研究)

編集後記／第1号

担当／佐々木

広島大学教職大学院ニューズレター第1号をご覧いただき、ありがとうございます。今後も教職大学院の「理論と実践の往還」や「探求・創造・協働の学び」の場面を少しずつお伝えしてまいります。ニューズレターは年4回の発行を予定しておりますので、次号を楽しみにお待ちください!